

【家庭教育支援チーム】

(1)活動主体(チーム)について

①チーム名 (呼称)	山口市家庭教育支援チーム (呼称:中央チーム)
②活動拠点	白石地区 湯田地区
③活動範囲	山口市内
④組織体制	5 人 子育てサポーター1名、元教員1名、元幼稚園教諭2名、 地域学校協働活動推進員1名
⑤活動開始年度	2018 年度
⑥問合せ先	(部署・氏名等) 山口市教育委員会社会教育課 (TEL)083-934-2865 (E-mail)s-kyoiku@city.yamaguchi.lg.jp

(2)活動内容について

①活動形態 (複数チェック可能)	☒ 保護者等への学びの場の提供 ☐ 保護者等への地域の居場所づくり ☒ アウトリーチ型家庭教育支援(※保護者の居場所に出向いて届ける支援) L ☒自宅に届ける支援(情報提供、相談対応等) ☒保育所・幼稚園・学校等に届ける支援(情報提供、相談対応等) ☐その他の保護者に届ける支援(情報提供、相談対応等) ☐ その他()
②活動対象 (複数チェック可能)	☒ 乳幼児 ☒ 小学生(低学年) ☒ 小学生(中学年) ☒ 小学生(高学年) ☒ 中学生 ☒ 高校生以上 の子供を持つ保護者に対する活動を実施

③活動内容	【具体的な活動内容】 ○学校や家庭に出向いて必要な家庭教育支援を届ける ・保護者カフェ1 学校内や地域交流センターに地域の子育て家庭が気軽におしゃべりができるカフェを開設し、子育ての悩みや聞きたいこと、聞いて欲しいことなど子育て仲間と自由に話せる環境を設ける。家庭教育アドバイザーとしておしゃべりの中に参加し、おしゃべりの進行役(ファシリテーター)としてグループを運営する。支援やサポートが必要な子育て家庭を知り、寄り添う体制を作る。保護者から講座やおしゃべり会の依頼があればコーディネートする。 ・保護者カフェ2(不登校傾向にあるお子さんの親) 地域交流センターに開設し、お子さまが同伴できる(お子さまは別の部屋で保育者と過ごす)環境を設ける。地域を越えて参加でき、悩みを共有し合える場となるように配慮する。ぷちワークショップを用意し、和やかなムードの中で気軽におしゃべりができるように気配りをする。
④活動の成果 (活動実績がある場合)	・気軽におしゃべりができる場の中でホッとされるのか、参加された方は「次はいつあるのですか？」とリピーターが多い。 ・たくさん話しても話し足りない方が多い。悩みを抱えた方や転勤してきたばかりで地域や学校のことがよく分からないと言われる方が必ず参加されていて、深刻なケースなのに相談できていなかったけれどカフェで話すことができたという方も少なくはなく、もっと話を聞いて欲しい方は改めて相談の場を提案できるので、今後カフェを継続して回数を重ねていくとより多くの様々な悩みや聞いてみたいこと、話題を抱えていらっしゃる子育て家庭の教育支援ができると思う。 ・悩んでいたけれど一体どこに話せばいいのか、誰が聞いてくれるのか分からず悶々と過ごしていた方に必要な支援が届けられるので、出向いて行く支援の効果は今後も期待でき、必要で大切な方法だと思う。 ・子どもが不登校傾向にある親のカフェは、登校しぶりの初期段階のサポートとして寄り添えるので今後とも定期的に実施していきたい。
⑤活動財源 (複数チェック可能)	☒ 文部科学省補助事業(事業名:地域における家庭教育支援基盤構築事業) ☐ 文部科学省委託事業(事業名:) ☐ 厚生労働省事業(事業名:) ☐ 地方公共団体単独事業として実施 ☐ 特段の予算措置はない(自主的に活動を実施) ☐ その他の支援により活動を実施 ()